令和7年4月11日 令和7年度第1回県立学校長会 大石教育長挨拶

先日、新規採用の先生方の辞令交付式に出席しました。式後の講話で、困ったら、上司に相談するように、きっと助けてくれると言ってあるので、大切に育ててください。また先生方に、今、自信はありますかと聞いたところ、誰も手を挙げませんでした。なくてよい、ないほうがよいと私は考えると言いました。自信のなさが謙虚さにつながり、向上心につながる。そんな人こそ、きっとよい先生になると話しました。そして、作家の城山三郎氏が「初心が魅力をつくる」と述べられていることを紹介しました。城山氏が、初任の方は知らないと思ったので名前は言わなかったのですが、皆さんならご存じかと思いますが、サミー・デイヴィスJrの舞台をラスベガスでご覧になった時の話です。サミー・デイヴィスJrは日本の洋酒のCMにも出演していた記憶がありますが、当時、アメリカ最高のエンターテナーで、ステージも素晴らしいものだったそうです。劇場で何日もやっているショーなのに、タイムリーな話題を選び、全力で歌い踊り、今日が初日だといわんばかりの新鮮さを客に与えている。やる方は毎日でも客は初めて見るので、来てくれた客を楽しませようと努める姿は感動的だったと述べています。その上で、初心を持ち続けるとは、ずっと初々しくあるとはどういうことかということ、自分に安住せず、人から受信、吸収し続けようとする生き方だと述べています。教員にとっては何年かの教員生活の一コマであっても子どもにとっては大切な時間、教えるのが何度目かの手慣れた内容であっても子どもにとっては初めての授業。経験を積んだとしても、いつまでも初々しい心で子どもと向き合うことができる、そういう先生がプロフェッショナルであり、魅力的なのだと話しました。我々も教員としてはベテラン過ぎるくらいベテランになっていますが、新しいことにも興味をもち、人に興味をもち、謙虚で新鮮でありたいと思います。

また、教育とは何か、学校とは何か、教員とは何かと話したのですが、ここでは、これからの学校の役割についてお話ししたことに触れておきます。

かつて知識は知識階級の専有物であり、学ぶということは知識階級から手渡しされる知識を受け取る作業でしたが、今は違います。インターネット上に知識の断片はいくらでも落ちている時代、学校教育はどうあるべきか。発達段階にもよりますが、学びの本質は自学自習だと私は思います。学ぶ気があれば本を読んでも学べますが、知識としてはそれだけでは不十分だと思うのです。本や、望むべくは授業をきっかけにさらにいろいろなことを知りたくなり、学んだことを基に対話し、自分とは異なる考えを知り、その知識を磨いてより広がりのある、より確かなものにする。それには指導者や仲間が必要であり、そういった学びの場が必要なので、これからの学校は、子どもが1人ではできないこと、自宅にはできないことを提供する場でなければならないと。わざわざ来る価値がある場所でなければならないと。

また、このあと担当から詳しく説明がありますが、このほど、「第3期奈良県教育振興大綱」を策定しました。その目指す教育の方向性として、「一人一人の可能性を最大限に引き出す教育」を掲げています。今年の県立人事係長は農業が専門で、サクラのように花を楽しむ木もあれば、サルスベリやマツのように幹の美しさを楽しむ木、キンモクセイやウメのように香りを楽しむ木など、それぞれの樹木の種類や特性を理解しながら、いろいろな樹木を配植することで日本庭園は素晴らしいものになると教えてくれました。

学校も、様々な個性をもつ生徒がいて素敵な学校になるので、生徒の可能性を引き出し、それぞれ個性を発揮できるよう、大綱を実現するために策定した「奈良の学び推進プラン」に基づき、奈良県の未来を創る子どもたちの夢を育み、夢を実現できる教育を推進いただきますようお願いします。

先ほど、異動のあった先生方のご紹介がありました。それぞれの学校をどうかよろしくお願いします。新着任の校長先生方にエールを送りたくて何をお話ししようかと考え、手元にある古い資料を開いてみました。私がまだ駆け出しの教員だった頃、奈良高校の定時制でも全日制でもお世話になったのが、M校長。当時の奈良高校には始業式、終業式に生徒だけ行かせて自分が出ない教員もいましたが、M校長の式辞が面白く、教室に戻ってきた生徒が話題にするので、出ていなかった教員も出ないわけにはいかなかったようで、そのうち皆出るようになりました。出てこいと言わずに出てこさせた。部長級の先生方に対する指示が的確で、曖昧さを許さない点は厳しいと思いましたが、我々若手には大変優しく、一言一言が示唆に富み、今も仰っていたことを覚えている、尊敬する上司です。

そのM校長が、学校の教育活動は蓄積や振り返りが足りていないからと、記録し、評価し、次年度に生かすためにその年度の諸々の資料を1冊に綴じて残すよう指示されました。『集録』と名付けられたその冊子を、物持ちのよい私は今も手元に置いています。そこには当時、校長会長だったM校長の、初任研、新任教頭研修、新任校長研修の講演資料も載っているのですが、新任校長研修の資料の冒頭、校長になるということの意味について、「教育の理想を実現させたくてなったはずだ」といったことが書かれています。そして次に、「校長船長論・・・Abandon」と書いてあります。「Abandon」は A、B で始まりますから受検英語単語集の最初に出てくるので、不熱心な生徒だった私でも覚えている英単語です。意味は「棄てる」ですね。学校、組織を船に例えることはあると思うのですが、項目だけなのでどういうお話だったのか分かりません。聞いてみたかったなと思います。「船を棄てる」という場合、船長は最後までそれに乗っているでしょうから、相当厳しく、大きな判断が迫られると思います。学校を棄てることはないと思いますが、校長は、それほど大きな判断ができなければならないということなのかと、自分なりには考えています。

確かに、学校教育法第37条に「校務をつかさどる」とあるように、校務、つまり学校運営上必要な一切の業務を担当、管理する校長の権限は大きいものです。誰でもなれるわけではない重責であり、その気になればかなりのことができる魅力的なポジションです。それぞれの学校のスクールミッションを踏まえ、現状やニーズを把握し、生徒にどのような教育を提供するか、今までのご経験の集大成として何をすべきか、何ができるか。お任せした学校の経営に、楽しんで当たっていただきたいと思います。また、昨年も申しましたが、学校経営の観点として、ご自身が高校生だったら行きたいと思う高校、保護者だったら子どもを行かせたい高校、特別支援学校を目指していただきたいと思います。これができる時間は限られています。私も3年とと思っていましたが、結果2年で終わりました。自分の経験を踏まえれば、人事は何が起るかわからないので、1年1年、やるべきことをやる、1年でできないことは、結果責任が取れないので職員の合意形成が不可欠ですが、自分がいなくなっても継続される仕組みを作るとともに、後継の校長の判断に任せる心づもりも必要です。

ただ、校長の判断は、文書の決裁から大きな決断まで、正しい情報に基づいて行われなければなりません。決裁文書のすべてに責任を負うのですから、その文書の意味や背景にある法や規則に対する知識を備えていただく必要があることは言うまでもありませんが、根拠が弱かったり間違っていたりすれば、判断は誤ったものになります。常に教職員や保護者、生徒、校長会の仲間や県教委事務局等、信頼できる筋から正しい情報を集めることが、自分の経験上、校長にとって極めて肝要だと思います。

ちなみに、先ほど触れた『集録』の「校長船長論」の後には、「学校体制を整えること」「学校の活性化について」と続き、活性化の中身として「教育には動きが大事、生徒が主役の学校行事を大切にすること」「校長講話は生徒に聞かせるとともに先生方にも聞かせる意味をもつ」などが書かれていますので、紹介しておきます。今にも通用する大切なことだと思います。

また、今日的課題として教員の業務負担軽減があります。教師の平均時間外在校等時間を令和11年度までに3割縮減することを目標とする合意が、財務大臣と文科大臣との間でなされており、教員の働き方改革の更なる加速が求められます。県では、「教師にゆとりを！こどもに笑顔を！プロジェクト」に取り組んでおり、予算も増えています。教員の業務を在校等時間だけではかるのは難しいように思いますが、目に見える成果としてはどうしてもそこにならざるを得ません。これを短縮して先生方がよりよいコンディションで子どもたちの教育に携わっていただけるかは管理職の関わりが大きいと考えますので、意図的に取り組んでいただきたいようお願いします。

もう一つ、私としては、各教科等研究会の会長を務められる校長先生方には、教員の教科等の指導力がさらに高まるよう、それぞれの会の活性化、活動の充実に努めていただきたいと思っています。教育基本法第9条に教員は「絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」と書かれているから、というだけではなく、生徒の前に立つ以上、よい授業をすることが教員の使命だと考えていますので、よろしくお願いします。

昨年着任した折、子ども目線、学校目線の教育行政を行うこと、前任には経験やリーダーシップで劣る自分は万事教育委員会事務局の皆と考え、校長会とも相談しながら進めるとお話ししました。また、県立学校をすべて回らせていただくことにしました。日程の調整が不調で特別支援学校2校に行くことができず、申し訳なく思っています。今年度も観点を变えて、改めて学校にお邪魔するつもりなので、よろしくお願いします。